

令和3年度 第2回鎌ヶ谷市文化財審議会会議録

開催日時 令和4年3月24日（木） 午後2時00分～

開催場所 鎌ヶ谷市役所庁舎6階 第1・2委員会室

出席委員 小川浩委員長、金出ミチル副委員長、石神裕之委員、高見澤美紀委員、
大内千年委員

事務局 皆川教育長、小松崎文化・スポーツ課長、後野文化係長、
大竹主任主事、高木主事補

傍聴者 なし

1 開会

2 あいさつ

皆川教育長

小川委員長

3 議題

会議録署名人の選出について

会議録署名人に金出副委員長・石神委員を指名（名簿順）

【協議事項】

（1）令和3年度文化財保護主要事業について

事務局より会議資料に沿って説明した。

〔質疑〕

金出委員：⑤千葉県北西部地区文化財担当者連絡協議会第68回会議の議題で地方登録制度とあるが、市町村が登録する登録有形文化財を指すのか。

事務局：今年度より文化財保護法の改正に伴って、県や市町村が文化財の登録を行えるようになったが、各市の意向と情報共有を行った。流山市は導入する方向で進めているとのことであった。

小川委員長：流山市は今月末（29日）に具体的に話をする予定である。

金出委員：登録制度は文化財保存活用地域計画にも関わってくると思う。

(2) 令和4年度文化財保護主要事業について

事務局より会議資料に沿って説明した。

[質疑]

大内委員：保存活用計画策定委託というのは、コンサルタントを入れるのか。

事務局：そうである。プロポーザル方式で選定しようと考えている。保存活用計画策定は令和4年度と令和5年度の2か年で計画している。

大内委員：どのような作業を委託する予定か。

事務局：令和4年度は主屋の調査と保存活用計画の策定、令和5年度には門と米蔵の調査と保存活用計画の策定、令和6年度に整備設計を行い、令和7年度以降工事に入るという計画である。

小川委員長：屋根は草葺きに戻すのか。

事務局：屋根は現在の銅板のままの予定である。銅板の下に草葺きがあるのでそれを見せるなど活用していけたらと思っている。

小川委員長：銅板で覆っているため、湿気に気を付ける必要がある。野田市では、燻蒸のように煙で燻す作業を定期的に行っている。そういった作業を梅雨の時期等に行うと良いと思う。活用についてそのような細かい視点がこれから必要になってくると思う。

事務局：屋根の保存活用についても、計画に入れていきたいと思っている。本来であれば、市が今年度澁谷家住宅の敷地を含めて購入し、所有した上で来年度保存活用事業に入っていくという予定でいた。しかし、購入が来年度に延びたため、市は、購入までの間、管理団体という位置づけで、関わっていくということになった。先日、国に管理団体への承認申請をして、認定されたため、澁谷家住宅は市の管理になっている。

小川委員長：澁谷家住宅には家相図が残っているので、それが崩れない形で保存して行って欲しい。景観を大きく変えてしまうと復元不可能になってしまうので、現状をトレースする等景観が失われないようにしていただきたい。

事務局：承知した。

(3) 国史跡下総小金中野牧跡周知普及事業について

事務局より会議資料に沿って報告した。

〔質疑〕

大内委員：とっこめ塾の見学と合わせて保全活動をするというのは画期的で素晴らしい。史跡に親しみを持つとともに史跡の保全に自分が自ら関わることができたという満足度にもつながるので非常に良いアイデアだと感心した。

小川委員長：春の牧ウマまつりは開始から何年経つか。

事務局：平成21年度より開催しているので10数年である。

小川委員長：一方的な説明だけではなく、市民の方が直接史跡に触れるということが一番だと思う。より一層の充実をお願いしたい。

石神委員：とっこめ塾参加者の年齢層はどうなっているか。

事務局：年配の方が多い。40から50代が1、2名で、それ以外が60代以上となっている。

石神委員：若い世代の人にも周知して行って欲しい。

高見澤委員：とっこめ塾と清掃活動は午後1時開講でその後清掃活動というスケジュールになっているが、実際に清掃活動の時間はどのくらいか。

事務局：約2時間とっこめ塾を開催しているので、15時から16時くらいにとっこめに移動して、最初に現地を説明した後に清掃作業を行っている。

高見澤委員：終了時間は17時くらいか。

事務局：そうである。

高見澤委員：土曜日の午後に予定があるというのは、人が集まりづらいのではないか。午前中からイベントを開催し、午後は早めに終わると参加しやすいかもしれない。しかし、午前中からイベントを開催しようとする、現在のスケジュールでは時間的に難しいと思う。

小川委員長：人を比較的集めやすいのは午前中よりも午後だと思う。時間帯を変えて開催するのも1つの案だと思う。

(4) 市指定文化財「鎌ヶ谷大仏」修繕について

〔質疑〕

金出委員：今回の鎌ヶ谷大仏の修繕の記録は、鎌ヶ谷市の文化財の記録としてだけではなく、他の方々が仏像修理をする際に参考になる内容であると思う。奈良文化財研究所で調査報告書等を一括して公開しているデータベースがある。今回の鎌ヶ谷大仏の修繕についてもぜひ広めていただきたいと思う。奈良文化財研究所を通しての公開を検討していただきたい。

事務局：今回の報告書は今後、鎌ヶ谷大仏を再度修復しなければいけない時に残しておかなければいけない資料として作成したものになるが、外部に参考資料として公開することも検討していきたい。

金出委員：資料に記載されている報告書作成というのは刊行することではないのか。

事務局：報告書作成は冊子として刊行するのではなく、業務完了の報告書の様なものである。

金出委員：手間はかかるが、今回の調査で分かったことや、歴史的調査、修理時にしかわからないことを発表して欲しい。他の専門家や市民等、誰が聞いても興味深い内容だと思う。鎌ヶ谷大仏に対する愛着が深まるきっかけになる修理の内容だと思う。

小川委員長：調査していただいた先生方からコメントを頂けるのであれば、講座など新たな形で鎌ヶ谷大仏を見せることができるのではないか。

小川委員長：修繕は約200万円だったのか。

事務局：主には鎌ヶ谷大仏を持ち上げて移動する業務委託で約209万円であった。

小川委員長：参考になった。

事務局：今回、鎌ヶ谷大仏の移動を行った業者は現代のブロンズ彫刻等を取扱っている会社である。文化財に携わった経験はあまりないが、今回の修繕にコンサルタントで関わっていた業者から、細かい注文にも丁寧に対応してくれるということで紹介があった。実際に今回の修繕でも、鎌ヶ谷大仏の所有者に安心してもらえるように何度も検討を重ねて図面を作成してから工事を行った。

石神委員：劣化調査は行わなかったのか。

事務局：行っていない。

石神委員：劣化調査をした方が良かったのではないかと私は思う。劣化調査は動かしたときにしかできない。そのタイミングで調査するかどうかが、今後に繋がってくる。富山大学の三船先生が内部を見ているから肉眼調査は行っていると思うが、しっかりした劣化調査を行った方が良いと思う。

今回の移動で穴が出現しているが、その穴は1度修復した痕跡がある。これについて三船先生はなにか言っていたか。

事務局：穴に対しては特に言っていなかった。

石神委員：穴の部分は弱くなっていたと思うが、なぜ弱くなっているのかを調査したほうが良い。穴がもう一度広がる可能性があるかもしれないので、劣化調査を入れても良かったと思う。

小川委員長：鎌ヶ谷大仏については、今回の修繕で終わりにせず、石神委員から指摘があったように継続的に確認してはどうか。

石神委員：移動によって出現した穴の修繕でビスを入れているが、このビスの素材はなにか。

事務局：ステンレスである。

石神委員：ビスにどんな素材を使用したかが問題になってくることもある。現代ブロンズ等も扱っている会社なので、現状の内容では大丈夫だと思う。しかし、鎌ヶ谷大仏は文化財なので、今後、県指定や国指定になる方向性を考えた時に調査の記録は取っているが、修繕の際に使用する素材等も踏まえておいた方が良

かったのではないかと思う。

小川委員長：予算が取れなくても表面調査や劣化調査等の計画を立てて行っていくことで繋がっていくと思う。

石神委員：非破壊で調査する方法もあると思う。三船先生は調査方法をご存じだと思う。

大内委員：鎌ヶ谷大仏は、文化財として同じような種類の仏像の中では比較的新しい時期の部類に入る。江戸時代半ばの仏像の文化財としての修理はあまり行われていない。今回動かして様子がわかっただけでも、画期的だと思う。この成果をもとに、所有者が保存修理を計画的に行えるよう、市が関わっていくと良いのではないか。

石神委員：江戸の鋳造物は各地にあるけれどもなかなか修繕の対象にならない。今回の修繕は良い事例だと思う。

大内委員：鎌ヶ谷大仏は知名度もあり、県内ではこの時期の鋳造物の保存活用のモデルケースになると思う。千葉県の東側には同様の規模の鋳造物が多いが、今までは文化財扱いをされていなかったものが多い。

金出委員：何年もかかると思うが、今回の鎌ヶ谷大仏の修繕に関連する一連の記録を1冊の報告書にまとめて欲しい。金物は何を使ったか等をまとめて欲しい。その報告書が、仏像修理の経緯を示すものとなってくる。鎌ヶ谷大仏は市の象徴になっているが、今よりもさらに推していいと思う。

大内委員：劣化の観察を行うタイミング等を三船先生によく聞いておくと良い。

小川委員長：修繕後の観察をしっかり続けていかなければいけないと思う。

高見澤委員：修繕の工程は動画に撮っているのか。

事務局：撮っている。

高見澤委員：市民にとっても興味関心が高いので、可能であれば鎌ヶ谷大仏の移動する動画や内部の様子を市役所や郷土資料館の展示等で市民へ調査結果を知らせて興味関心を引くと良いと思う。

小川委員長：市民講座を行うと良いのではないか。

大内委員：郷土資料館で大仏の移動の様子をモニターで流してもいいと思う。

高見澤委員：YouTubeで流してもいいと思う。市のYouTubeはあるか。

事務局：市ではYouTubeアカウントをもっていない。FacebookかTwitterのアカウントならある。

高見澤委員：FacebookやTwitterも動画を流すことができるので、移動の様子を公開してもいいと思う。

金出委員：現在ワクチン接種などで市のHPはアクセス数が多いのではないか、市HPのトップ画面に大仏を移動している様子を掲載してもいいのではないか。

高見澤委員：今回の調査は市をあげた広報活動にも利用できそうな調査だと思う。

事務局：鎌ヶ谷大仏の修繕については、パネル展示を行う予定である。

【報告事項】

(1) 文化財保存活用地域計画について

事務局より会議資料に沿って説明した。

〔質疑〕

大内委員：本日配布された地図資料が計画本編に追加されるのか。

事務局：そうである。この地図資料は今後、鎌ヶ谷市の特徴を挙げたものを加えて1つの図にしていく予定である。この資料は鎌ヶ谷市の歴史文化の特徴を示したあたりに入れていきたいと考えている。先日の協議会で第6章の基本方針を経て第7章の取組という流れはわかるが、第8章が唐突すぎるという意見をいただいた。

大内委員：構成は文化庁の縛りがある。そのため、構成自体は変えられない。言葉でうまくつなぐ必要がある。

事務局：第7章から第8章への繋がりに関する指摘をうけ、言葉でも説

明はするが、図として、目で見えてわかるような形で示せないかと一覽で作成したものが別添資料である。イメージとしては、全体的な目指す姿「豊かな心で生きがいを実感できるまち」をめざすためには文化財の基本理念として、「みんなで守り伝えるふるさと鎌ヶ谷の文化財」があり、その下に基本方針があり、取り組みがくる。これが全体像（緑色の部分）になる。それが第6章、第7章の部分になるが、第8章については、関連文化財群というまとまりをつくり、活用を図るなかで、どういうことができるのか、どういった活用をしていくことで、目指す姿（基本理念）に繋がっていくという位置づけで示していきたいと考え、このように作成した。この図を第8章の最初のところで、入れることで、計画の狙いを見せていけたらと考えている。

大内委員：他市の地域計画でも第7章から第8章の繋がりは、事業との繋がりがなかなかうまく取れず、悩んでいるところではある。この資料のようにそれぞれのストーリーに事業が紐づいているという考え方がいいと思う。ビジュアルで示すのは非常に良いことだと思う。地図資料だが、計画は鎌ヶ谷市民だけが読むものではないので、このような資料が必要だと思う。この地図資料があることで、佐津間地区は旧佐津間村、中沢地区は旧中沢村等が読んでいてわかると思う。

金出委員：冊子資料のなかで6ページから8ページに別々の鎌ヶ谷市の地図があり、それらの要素を重ねたときに見えてくるものが地図資料のようなものであるといいと思う。例えば7ページの地図では地形を表したいが、地形が見えない。6ページから8ページの地図の前ページに地図資料を掲載し、そこに6ページから8ページの地図が関連してくるというのはどうか。また、繋がりが分かりづらいと言われている第7章から第8章にはもう一度地図資料を掲載することによって、地図資料の意味が出てくると思う。この地図資料をうまく使い、計画を読んだ人の印象に残るようにできると良いと思う。

石神委員：千葉県東葛地区さらに市内各地区とだんだんフォーカスされていったときのその場所の特徴が見えてくると良い。例えばこの地図は、柏市の谷津と何が違うのか、松戸市と何が違うのか、なにが同じなのかというところも見えると良いと思う。東葛地区は、谷津があって縄文の遺跡があるという特徴から同じように見えてしまう。今回の計画の場合、水源地ということをもっと最初に挙げ、そこに独自性が来ていたところは、内容的にわかりやすい。その部分は、先ほど金出委員が言ったように地図をレイヤーで分けていくと良い。8ページの低地と第一段丘第二段丘というのはたしかにあると思うが、これはいわゆる概念図のようなものである。もっとしっかりとした等高線図で作った方が良いのではないか。それを地図資料にも生かせないのか。

45ページの「地域の拠点」がわかりづらい。地域というのがどこの地域かわからない。鎌ヶ谷市が起点となり、大津川等の川が流れていくというような地域ではあるので、言い換えた方が良いと思う。これが鎌ヶ谷市の歴史文化の特徴と言う時の言葉として何が良いか。

高見澤委員：拠点という言葉を使用しているが何の拠点なのかわかりづらい。

石神委員：拠点という言葉を使って良いかというところから検討する必要がある。

金出委員：交差するまちというのがすごくいい言葉だと思う。6ページの鎌ヶ谷市の位置の図、これに木下街道を付け加えるとすべてが鎌ヶ谷市に結集するような場所に見え、交差するまちというのが伝わりやすいと思う。拠点というと人や文化がここに集まり、ここから分散していくということが一番言いたいことだと思う。

大内委員：交差点、結節点のように自然と集まるところで、この地域の拠点ということが言いたい。結節点の方がまだ良いかもしれない。45ページにも地形とか元の地形とかを一緒に示すと概念図のイメージが地図と重なり理解しやすくなると思う。

金出委員：水は青のレイヤー、牧は緑のレイヤー、街道は別の色のレイヤー、というような図があると良い。

高見澤委員：高低差を示すのであれば、断面図がある。よく山の地図でみるような図で、黄色いところは平らで、緑のところは急に下がり、白いところはかなり低く、そこには水が流れているというように高低差をはっきりさせておくと良い。少しデフォルメした形でも構わないので、水とか牧を示し、土地の高低によって、使い道が違うことを示すことができるかと思う。そうすることで、この概念図の4つがどういう高さであり、それぞれどう影響しあうのか、もしくは影響しないのかというようなところが、はっきり見える気がする。現在計画に掲載予定の地図はすべて上から見た図だけなので、平坦な感じに見える。文章を読み進めないとどのくらいの高低差があるのかわからないので、一目で高低差が分かるような形になるともう少し違う見え方がするのかなと思う。

金出委員：中学校で使用している地図帳のような立体図が良いと思う。

高見澤委員：簡易的な3D的なものでも構わない。

小川委員長：地図については、計画を読み進めて行くことで、最終的にイメージが立体的に見えるような工夫がされているが、植生については説明だけで終わっている。迅速図に鎌ヶ谷市域は載っていると思うが、明治の初期の植生は迅速図で、杉や松等が分かる。植生についても水系と一緒にもう一度洗いなおすと最終的なイメージアップができるような工夫があると良い。

大内委員：来年度の夏には文化庁に提出しなくてはいけないと思うので、大幅な見直しは難しい。これまでの調査等は事業の箇所では反映されているような書き方になっていると思う。事業の中にこれまでやってきた調査で、埋もれてしまっているものがあるということが、書かれているとそれが今後、鎌ヶ谷市の事業として、またもう一回見直していくというような建付けになるかと思う。

小川委員長：内容の変更はいつまで可能か。

事務局：4月の末である。

大内委員：計画は来年度の下半期の認定ということで良いか。

事務局：そうである。

大内委員：来年度の下半期の認定となると、8月には文化庁に提出する必要がある。そしてその前までにパブリックコメントを実施したりすることから、中身を作成している時間はあまりない。この計画は、今までは個々の文化財をそれぞれ個別に保護していたが、それを行政として、一体として、全体の計画に位置付けて、それをバランスよく進めて行くための指針になる。そのため、こういった事実がある、こういう調査は行ったが、足りないところがある等を認識していくと、鎌ヶ谷市の文化財施策がスムーズに進んでいくのではないかというような考え方でつくるものである。また、計画を策定し、文化庁から認定を受けると、文化庁の使える補助金が増える等実務的なメリットがある。

事務局：来週（30日）に文化庁へ行き計画の内容について協議をする予定である。そこでまた直しが入ると思う。

大内委員：以前一度調査官が鎌ヶ谷市に視察に来ているはずだが。

事務局：2月4日に文化庁の調査官が現地視察に来ている。

大内委員：文化庁の調査官がきて、大まかな内容と現地の状況を合わせてみていただいて、必要な指摘はしていただいていると思う。

石神委員：47ページの図は右回りか左回りどちらか。

金出委員：この図は一つの方に回るものなのか、双方両側に矢印が向いているものなのか。

大内委員：双方に矢印が向くというよりは一つの方に回っていくものだと思う。螺旋状に回っていきその結果中央の基本理念が持ち上がっていくイメージだと思う。

石神委員：文化財の定義については改善されていたので良かった。

地域資源と文化財という言葉がそのまま出ているが、文化財の定義に従って書いた方が良いと思う。また、目的の文章が一文

になっているので、句点で区切ったほうが良い。「地域資源を把握することであり、そして」となっているが、「把握することにある。」とここで句点を入れて文を区切った方が良いと思う。その後の、「そして」の後の部分が主語と目的語がはっきりしなかった。「は」も「が」もない。文章の内容がぶれるので主語を入れたうえで書いた方が良い。

大内委員：この計画を作成した際には、市民に還元、周知していくことが義務付けられている。その際には、郷土資料館で計画を概念化したわかりやすい立体模型等の展示があると良いかもしれない。

小川委員長：この計画をベースにして活用も別で考えて欲しい。

大内委員：中沢貝塚の指定についてどこかに盛り込めないか。1つの案としては、58ページ基本方針3文化財を残すという方針のところの39（文化財の指定・登録の推進）で文化財の指定登録の推進というように事業の方針を立てている。そして、事業の具体的な取組として、市指定や国登録の候補リストから順次となっているが、重点的な候補を挙げて順次進めて行くというのはどうか。そして、「例えば重点候補の一つとしては、〇〇」のように書くと良いと思う。この計画の関連でアンケートをとった際、鎌ヶ谷市立第四中学校の生徒たちが鎌ヶ谷市の文化財について、中沢貝塚を知っていると回答している。指定等にもなっていない貝塚の名前が市内の文化財として生徒たちから認知されていることはすごく珍しいことだと思う。そこまで認知度の高い貝塚が保護措置一つ取られていないというのが、おかしいと思う。アンケートの結果を生かして保護措置としては指定を目指して欲しい。また、史跡の指定と合わせて、出土遺物に関しても指定を進めるというような書き方で良いと思うが、重点をおいて、具体例として挙げて欲しいと思う。

石神委員：中沢貝塚の発掘についての学校資料はないのか。

大内委員：学校に置いてある資料はないと思う。以前鎌ヶ谷中学校にある

といわれていた資料があるが、調査したがわからなかった。鎌ケ谷中学校は移転されており、その移転の際に失われてしまったものがあると思われる。

石 神 委 員：今、学校資料は全国的にみても関心が高い。鎌ケ谷市もまさに中学生が発掘を行っていた歴史があるので、何か残っていたり、聞き取りであったり、様々な形で残っていたら良いと思う。

大 内 委 員：聞き取り資料だと、中沢貝塚は座談会で昔の調査に関わった先生方が、鎌ケ谷市立鎌ケ谷中学校（中沢貝塚1次調査を実施した昭和37年当時は、鎌ケ谷町立鎌ケ谷中学校）の生徒を動員して手弁当で行なったという話がある。

高見澤委員：画像に関してだが、まだ画像が用意できていないものについても、ほぼレイアウト位置が決まっているように見える。これ以上の画像は今のところ入れる予定はないということか。

事 務 局：その予定でいるが、入れた方がいいところについては加えていきたい。

高見澤委員：国史跡関係の写真がどこにもないので入れていただきたい。国史跡が市内にあるということは大きな利点であると思う。

事 務 局：国史跡の画像が抜けていたので追加する。

(2) その他

事 務 局：次回会議は4月25日（月）に開催したい。3月30日に文化庁との協議があり、協議後に修正したものを会議前に送らせていただきたいと思っている。4月27日（水）に協議会も開催予定なのでそこでも意見をいただき、5月には庁内の会議に今回の計画を挙げる。その後6月にパブリックコメントを予定している。最終的には8月に文化庁に提出という流れで行きたいと考えている。

閉会

【会議終了】

以上

以上、会議の経過を記載し、相違ないことを証する。

令和 4年 5月13日

署名人 金出 ミチル
石神 裕之